和良念興寺の頭骨

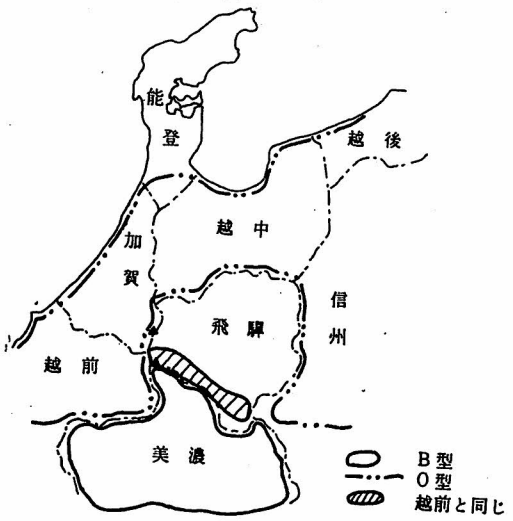
吉田幸平*

はじめに

岐阜県史編纂室の最高責任者である中野効四郎氏（岐阜大学名誉教授）は，県史刊行記念講演として，昭和47年11月19日，郡上八幡町において，郡上方面の郷土史愛好家200人以上を前に「郡上の伝説と信仰」と云う題で，主として高賀山信仰における虚空蔵菩薩信仰について講演し，その中で高賀山における妖怪を退治したという藤原高光は誤りで，藤原高房が正しいのであり，妖怪の骸骨は長頭型であるが，これも眉つばものであり，高賀山妖怪をめぐる那比・星宮・高賀の三社の神社縁起から推しても，これらの妖怪はすべて眉唾ものの取るにたらぬという，伝説に対する結論を与えた。

この骸骨の角（つの）は，後世仕付けたものとしても，この「しゃりこうべ」は正に人間であり，郡上郡粥川村から江戸中期に，粥川太郎衛門が，納骨してくれる処がないからといって，この寺に納骨したと

血液型の分布



いう伝えがあり，村人が信んじ信仰していたものが，偽作の眉つばものとあっては，この寺の住職は粥川村の人に申し訳けないというのである。

しかしながら，この極めて長頭型の人骨の縦と横は，信仰の対象のため測定できないにしても，この長頭型とこの妖怪信仰とを結びつけて，これを考察して見る必要がある。

I 頭骨の特徴

頭骨は，信仰の対象のため測定を禁じられていることであるので，測定値を表現することは出来ない。しかし，下記の特徴を見取れるのである。

1　現代日本人よりも大頭で，長頭型である。頭の線がなめらかである。

2　丸顔で額の彎曲が弱く，後退している。

*岐阜中部女子短期大学

3　頭骨の縫合は，一般に大荒目で簡単である。

4　眉間の隆起が強く，鼻の位置が高いこと即ち眉間に近い。そして眼尻の間が狭い。

5　眼窩の形は扁平で，角張っている。

6　横軸の傾斜が弱い。

7　歯並びは正しく，反っ歯ではない。前歯が脱落しているが，個々の歯はよく発達している。

8　脱落以外，虫歯がない。

9　歯の咬み合せに特徴がみられ，上下顎の前歯は見られないが，その他の歯はちょうど「毛抜き合はせ」に咬み合う様である。（鉗子状咬合といって，吾々のような鋏状咬合と区別する）

10　角(つの)は後世，山羊か羊のものか猪の犬歯（牙）か，とにかくこれは臘付けにして柿渋のようなものを塗っているので，頂上の附近は茶褐色であるが，他は標本のように白骨である。

故にこの頭骨をみて考える時，この角(つの)のことは削除して考えたい。

11　顔全体としては，彫の深い，立体的な印象を与えるばかりでなく，非常に精悍な感じである。

こうしたことから，これは中世後期や江戸期の人骨とは異なっている。筆者は形質人類学者ではないし，また測定も許されぬ現在，下記の文献を中心として，比較してみたのである。

鈴木　尚　「骨」日本人の祖先はよみがえる
鈴木　尚　日本人の骨
鈴木　尚　化石サルから日本人迄
小金井良精　人類学研究　続編
埴原　和良　骨を読む　ある人類学者の体験
河野　逸行　堀り出された江戸時代
水野　祐　日本民族の原流
河野　逸行　柳生飛驒守の義歯

縄紋時代から古墳時代を経て，鎌倉・江戸と経過した年代をみると，それぞれの時代の特徴がある。その時代的特徴は，同じ時間的間隔で，しかも一つの筋道をたどってきたというような，単純なものではないようである。

その変化してきた形質には，単に身長が高くなったとか，丸ポチャの顔が長くなったというばかりでなく，頭型，つまり頭の型の変わっていることも見逃せない重要な一つである。

1840（天保11）年に，スエーデンのA・レチウスという人類学者によって，頭型を頭の長幅示数にもとづいて分類するということが考察された。そして，長頭型・短頭型は独立した純粋の人種によるが，両者の混血によって中頭型が生ずると考えたのである。

人種や混血の研究には，頭型を決めるについて，遺伝も重要な要素の一つであろうという考え方のほかに，これらの中頭型が生ずるということは，その時代時代の人々の生活環境や栄養，生活といういろいろのものが，われわれの形質変化の重要な部分であって，頭型の変化に影響を及ぼしていると考えるようになってきたことである。この結果，縄紋・弥生時代，古墳時代，鎌倉時代などそれぞれ異なった発育構成を示してきているのである。

河野逸行氏は

『鎌倉時代人は，現代関東地方人に比べると，かなり小さく，中間にある江戸時代人はむしろ現代関東地方人に近いとし，この結果からして，頭の型からは，鎌倉時代人は前後に長いいわゆる長頭型をしているのに対し，現代関東人は短頭型に属し，江戸時代人は中頭型である。つまり頭型は鎌倉時代の長頭型から，江戸時代の中頭型を経て，次第に現代は短頭型に変化してきた。即ち，細長い頭の型

は，時代と共に円い型に変りつつあるということが考えられている』

鎌倉時代人は横に長い感じがするというが，縄紋・弥生時代人も横に長いのである。

II　郡上・石徹白人の頭型と血液型

頭型　郡上石徹白の上村家を中心とした頭蓋示数と，アイヌ系の示数を比較したものを左記に掲げてみる。然し，これは多くの人の指数ではなく，一糎を減じたものであり，確定的なものでないので，奥美濃の多くの人からの数値を出さないと不確実であるが，参考までに掲げておく。

頭骨比較一覧表

	頭蓋最大長		頭蓋最大幅		頭蓋長幅示数		調査者
	男	女	男	女	男	女	
	mm	mm	mm	mm	mm	mm	
十勝浦幌アイヌ	186.9	177.9	138.0	135.3	74.0	76.3	児玉
北海道アイヌ	185.9	177.2	141.3	136.9	76.0	77.3	小金井
日高アイヌ	190.9	180.1	144.7	137.1	75.8	76.2	児玉
八雲アイヌ	186.4	181.6	141.4	137.7	75.9	65.7	児玉
落部アイヌ	188.4	181.1	141.2	136.0	75.0	75.0	児玉
樺太アイヌ	185.8	179.6	139.2	136.4	75.1	76.4	小金井
石徹白上村	184.1	174.0	140.3	135.1	75.8	75.2	吉田
湯島無縁坂人	183.2	172.1	140.8	136.7	77.0	79.5	河越
鎌倉人	184.2	177.6	136.5	132.0	74.2	74.1	鈴木
吉胡貝塚人	183.3	176.7	145.0	141.7	79.2	80.1	金高
津雲貝塚人	186.4	175.7	144.4	141.9	77.7	80.8	清野・宮本
関東地方人	178.9	170.7	140.3	135.9	78.5	79.7	森田
畿内地方人	178.3	169.3	141.2	137.7	79.7	81.5	宮本
北陸地方人	183.0	172.6	139.8	133.6	76.5	77.6	大規
九州地方人	182.2	176.4	140.5	136.0	77.3	77.3	原
朝鮮人	176.2	167.8	142.6	136.9	80.7	82.0	上田
撫順中国人	180.8	173.2	139.7	135.2	77.3	78.0	島田
広東中国人	176.06	171.9	138.2	132.74	78.1	77.21	〃
福建系台湾人	179.19	172.26	138.84	133.72	77.8	17.62	浅井
新京中国人	178.5	165.8	139.8	139.4	78.4	84.1	小野
シリンゴール蒙古人	182.5	173.3	149.1	143.0	81.8	82.5	島
泰人	173.3	163.3	144.3	141.9	83.8	87.1	〃
ニューブリテン	183.8	166.6	129.4	121.7	70.4	73.5	千葉
念興寺	?	?	?	?	?	?	吉田

備考　機会と許可があれば，念興寺の頭骨は実測したい。

石徹白の人達は長頭型であり，あの眉の根の高く聳えた下に眼窩の深く窪んだ風貌とあの毛髪上の特徴は，人種的にみてどうしてもツングース系とは結びつかぬ。アイヌ系としかみえない。

毛髪　直毛は通常真直に垂れて，多くは相互に附着せず平行に発育した長くて粗剛な毛髪型で，ツングース系及び和人などの我々の毛髪である。石徹白人は各個の毛髪が浅く，或は深くて波線を描いている所謂天然パーマネントをしていることで，西アジア・ヨーロッパ北部などに分布する毛髪型である。

友人の上村宗平氏などは，全くの波型であり，眼窩の深い風貌や長頭型など，どうみても和人にはみえない。彼の父などは，鼻筋が通って外人の風貌で，鼻眼鏡を掛けて屢々拙宅に来られた事が少年時代の記憶にある。その外，スターリンの顔に良く似ているので，スターリンという綽名を持っていた堀内定次郎氏（元白鳥町会議長）に厚司を着せてアイヌ展に出たら，全然アイヌと区別がつかない程全くよく似ている。石徹白伊代氏（上在所在住）など，骨格と云い髪型と云い正に特筆される部落の人達である。

この毛髪の断面を顕微鏡で観察すると，直毛は円形を呈し，扁平なもの程捲く様になり波状毛は卵楕円形なのである。これは気候状態が，間接に毛髪型の変化に作用すると考えられている。

眼瞼器官　眼瞼器官の発達と構造は，顔面形態上重要な観点で，眼裂幅と蒙古皺襞の有無である。石徹白人はこの皺がないのである。

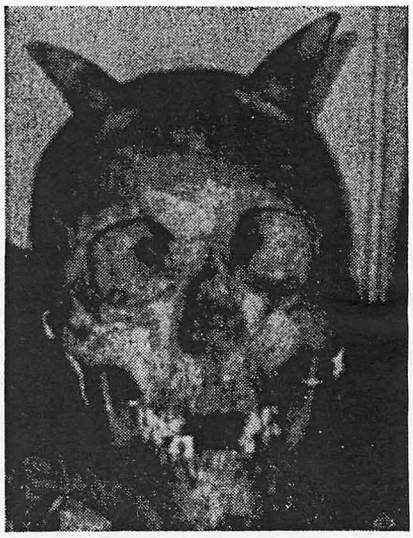
眼裂幅というのは，眼の裂目または開き工合の広狭のことである。ヨーロッパ人やマレー人の眼は，開き方は水平であり，多少もり上って広く開いているので，これを水平眼ともいう。従って眼孔が広く上眼瞼がまくれ上っていて，涙阜と結膜半月皺襞とがよくみえるので，これをヨーロッパ眼またはマレー眼と呼ぶ第一眼型とするのであるが，アジア人においては眼裂が狭くなっている。

この人種の典型的な眼裂は斜状で，眼の外角（眼尻）は内角（眼元）より高く，眼裂形は不均斉な三角形を呈するので斜眼といっている。

蒙古人種などは，共通して内背部皮膚の襞が伸びており，眼の内角を被い頬にまで達するものがある。

この点石徹白人は，ヨーロッパ型の眼瞼をしていることも特徴である。

こうしてみてみると，石徹白人は，欧州型即ち極地民族型の人種で長い間に和人化してきたとはいえ，未だそういった点について，和人の血が濃いといえる。このことは，越前から石徹白を経て郡上一円も，そういった血が流れているといっても過言ではなかろう。


和良念興寺の頭骨

血液型　古畑博士は日本人の血液型分布率からみて，左記のごとく分類をしている。

O型因子―東北地方・北陸地方と濃尾地方特に頻度が太平洋へ裏日本から抜けている。
九州では日向に高く，それが沖縄へ通じている。

B型因子―東北地方では陸中を除外した各地方は頻度が高く，この傾向は北関東より中部山岳地帯に及び，裏日本では越の国と信州が頻度が高い。

とあり，これは，裏日本と信州がある地帯即ち越前―奥美濃―信州と繋がっていると思はれる。さらに，日本列島の西南部はA型率が高く，東北部は逆にB型率が高い人種であること，そして南鮮地方の朝鮮人はA型率の高い人種である。

日本石器時代人の特質を最も良く保存していると見られる北陸日本人の血液型の原初的なものに，北方から日本列島へB型の因子の頻度の高い人種のアイヌ或は満州型人種群が入りこんで来ているという。こうしてみると，日本原人的背景の中に，各人種が越前―奥美濃―信州に入りこんできている

と云うこともいえそうである。故に石徹白人が，可成り変はった人種でもあるといえるのである。

石徹白人のみを追求せず，奥美濃も対象として調査をすれば，同じようなことがいえるかもしれないが，和人化して石徹白のような取り残されてきた処とは同じことがいえないかもしれない。前述の路線では，過去においてはいえたのではなかろうか。こういう意味で念興寺の頭骨も，この部に入るものであろう。

III　石徹白人の頭型とアイヌ人

郡上から越前石徹白にかけて住む人達の頭骨は長頭型である。例えば，アイヌ系といわれる石徹白の人の頭骨は正にアイヌ型であり，アイヌ系と自負する人達の所謂白山社家として奥州藤原朝臣と称するこの石徹白の人達はたしかに脱日本型である。これは夷（エビス）の末孫であろう。

アイヌとは明治5年以降，アイヌ研究者のイギリス人，バチェラー女史がつけた名称であり以前は

上代→毛人（エミシ）

中世→夷（エビス）

近世以降幕末→夷蝦（エゾ）

明治以降→アイヌ　　とよばれていた。これは，アイヌ人類学者であった金田一京助の考え方でもある。

こうしてみると，妖怪とは長頭型のアイヌ系の夷形または先住民族であるということになる。この妖怪こそは，正に夷族か土蛛蜘の先住民遠呂智族であろうと推察するのである。

ま　と　め

以上，和良念興寺の頭骨を中心に石徹白人の人種的性格について述べてきた。これは信仰の対象であるため，測定もできないが，長頭型であることは明らかである。その来歴については，II・III章で明らかにしたとおり，石徹白の先住民族の存在が十分考えられ，これが妖怪とされてきたものと推察される。

今回は紙数の関係で，以上の報告にとどめるが，この頭骨を中心として奥美濃の妖怪伝説についても稿を改めて報告をまとめたい。